

A-54) 悪性神経膠腫に対する温熱化学放射線療法の治療成績

高橋 英明・田中 隆一  
柿沼 健一・本山 浩 (新潟大学脳研究)  
宇塚 岳夫・森田幸太郎 (所脳神経外科)

我々は、悪性神経膠腫の非摘出術施行例に対して積極的に低侵襲性治療である組織内温熱療法を局所放射線治療および化学療法とともに併用してきた。今回は、その治療成績を報告する。【対象】悪性神経膠腫54例で、その内訳は初期治療に温熱放射線療法を行った29例と、再発症例で温熱治療を行った25例である。局所麻酔下に定位脳手術装置により温熱治療用の電極を設置し、腫瘍縁を43℃として加温した。加温は、13.56 MHz, RF interstitial hyperthermia 法により行った。【結果】初期治療例(29例)において、画像上、CR 8, PR 9例で、奏効率は59%であった。再発例でも、CR 3, PR 8で、奏効率は44%であった。副作用は一過性の脳浮腫が8例が主なものであった。【結語】温熱療法は、初期寛解導入期に、摘出術が施行できない症例に対して放射線や化学療法と併用し、深部に再発した症例において化学療法と併用することで有効な手段となりうる。

A-55) 聴神経腫瘍に対するガンマナイフ治療後の水頭症の発生について

中邨 裕之・高橋 康 (古川星陵病院鈴木二郎)  
城倉 英史・吉本 高志 (記念ガンマハウス)  
(東北大学脳神経外科)

【目的】聴神経腫瘍における合併症として水頭症はよく知られているが、Gamma knife (GK) 治療により新たに水頭症を呈する症例もあり、その要因に関し検討した。【方法】1991年11月から1996年4月に治療された86例が対象。追跡期間は10ヶ月-63ヶ月(平均34ヶ月)である。【結果】ガンマナイフ治療時に既に7例でシャント手術が施行されており、10例で水頭症症状はないが画像上で水頭症が認められた。ガンマナイフ治療より30ヶ月後には新たに9例でシャント手術が必要となった。水頭症を呈した症例は、高齢者で腫瘍体積の大きい傾向があった。【考察】水頭症発生例は第四脳室への圧迫が軽い症例にも多くみられ、機械的圧迫が原因とは考えられなかった。聴神経腫瘍に対するガンマナイフ治療後は、臨床的、画像的 follow up が重要で、その際には水頭症の発生を念頭に置く必要がある。

A-56) Neurohypophyseal germinoma の治療

加藤 正仁・加藤 功  
池田 潤・多田 光宏 (北海道大学)  
澤村 豊・阿部 弘 (脳神経外科)  
加藤 正仁 (苫小牧市立総合  
病院脳神経外科)

《目的》トルコ鞍内あるいは下垂体茎部に発生する germinoma は希であり、neurohypophyseal germinoma と呼ばれている。我々は、1994年から1997年9月までの間に、6例の neurohypophyseal germinoma に対し、EP もしくは ICE 療法に 24 Gy の局所放射線照射を組み合わせる治療を施行し、良好な治療成績を得ている。この6例を元に、neurohypophyseal germinoma の治療について考察する。《対象・結果》6例は男5例、女1例で、年齢は10歳から20歳(平均14.5歳)に亘った。内訳は、pure germinoma が3例、germinoma with STGC が2例であった。全例で尿崩症が初発症状であり、診断までの期間は、症状出現より、1ヶ月から4年、平均16.3ヶ月であった。3例では、尿崩症発症後の MRI で異常を認めない、いわゆる radiologically occult neurohypophyseal germinoma の期間が確認されている。治療は、化学療法として、4例に ICE 療法、2例に EP 療法が施行され、ICE 4コース終了直後で、放射線照射待ちの1例を除き、5例総てに局所照射を 24 Gy 行った。全例、画像上 complete remission の状態である。しかし、臨床的には、全例尿崩症が残存し、DDAVP の投与を要している。《結論》ICE 療法もしくは EP 療法と 24 Gy の局所放射線照射を組み合わせる我々の治療法は、neurohypophyseal germinoma の治療法として、非常に有効であることが示された。また、6例中3例が、いわゆる radiologically occult neurohypophyseal germinoma の期間を有していたことより、尿崩症の症例では、MRI 上異常が認められなくても、定期的に注意深く MRI で follow する必要があることが示唆された。

B-1) 脳血管撮影で非特異的な所見を呈した glioblastoma の一症例

奥山 徹・齋藤 孝次  
平野 亮・高橋 明 (釧路脳神経外科)  
稲垣 徹・稲村 茂 (病院)

脳血管撮影で中硬膜動脈から feeding され、あたかも髄膜腫を思わせる所見を呈した glioblastoma の一